



市テーマソング「この街が好き」が日本一の社歌に！

NIKKEI 全国社歌コンテスト 市民巻き込み頂点へ

2月3日、市のテーマソング「この街が好き」のPRを目的に挑戦した日本経済新聞社主催「NIKKEI 全国社歌コンテスト2023」の決勝戦があり、応募した125社の中で全国1位である「最優秀賞」を受賞した。

NIKKEI 全国社歌コンテストへは毎年出場しており、今回で4度目。初出場の際に「歌詞に名言賞」を受賞したがその後も最優秀賞には手が届かなかった。今回は「この街が好き」盆踊りバージョンでのエントリー。応募動画は“みんなの笑顔に会いに行く”をコンセプトに3年ぶりに開催された市内の保育所・幼稚園や小学校での夏祭りの様子を取材し、市職員が撮影・編集し制作した。審査員のシンガーソングライター・川嶋あいさんは「盆踊りによく合う楽曲に笑顔と夕暮れがマッチして素直に感動しました。」と評価した。

市担当者は「多くの人のご協力や熱い応援メッセージをたくさんいただいたおかげ。全国1位は自治体として唯一！受賞を心の底から嬉しく思う！この機運を大事に、さらに枚方の魅力発信に取り組んでいきたい！」と意気込む。

- ★ NIKKEI 全国社歌コンテスト（以下「社歌コン」）とは、会社の魅力が詰まった社歌について、それぞれの会社らしさが出るよう歌い撮影した動画を全国から募集するコンテスト。一般投票数上位5社と審査員選定7社の合計12社が決勝戦に進出できる。決勝戦で社歌を披露し、審査員による当日審査で最優秀賞と各賞を決定。最優秀賞1組、入賞11組（2位～12位）、入選15点程度が選出され、最優秀賞の特典は、JOYSOUNDカラオケ配信・日本経済新聞の特集で紹介・表彰状授与。

- ★ 市は決勝進出できる12社の中に選ばれ、2023年2月3日(金)東京で開かれた決勝戦へ出場。当イベントは決勝進出12社によるプレゼンテーションの後、審査員が最優秀賞及び、審査員特別賞を選出。当イベントで、市は125社の頂点である「最優秀賞」を受賞した。



- ★ 応募動画は“みんなの笑顔に会いに行く”をコンセプトに制作。コロナ禍でたくさんのイベントや行事が中止になり、コロナ前は当たり前だった行事も今では貴重な時間に。そんな中3年ぶりに開催された夏祭りで、その一瞬一瞬を楽しむ子どもたちのキラキラした表情や開催に向けて頑張る先生たちの笑顔を市内の5施設で、自分もその場にいるかのような没入感を味わえるように主観映像で撮影した。

★ 盆踊りの振りつけは市内の盆踊りチーム。スターダスト河内が担当。各学園等でのレクチャーや、市内の盆踊りの踊り手として市内を拠点に活動しており、動画にも出演。

★ コンテストの一般投票期間中には、市公式SNS上で呼びかける他、投票チラシを作成し、市内学校や施設に送付し投票を促すなど多くの市民を巻き込んだ。また市内への呼びかけも行った。

★ 枚方市テーマソング「この街が好き」

「ふるさと枚方で長く愛され受け継がれていく曲をつくりたい」

フォークデュオ 元・「TANEBI (タネビ)」のメンバーで、枚方出身のシンガーソングライター上田和寛（うえだたかひろ）さんの提案から、2019年にテーマソング制作プロジェクトがスタートした。歌詞には、TANEBIが市民たちから直接聴き取った街へのイメージや想いが反映されている。「河川敷」や「観覧車」、七夕伝説発祥の地とされていることにちなんだ「笹につけた短冊」などのワードが盛り込まれた枚方らしい一曲に。

★ 楽曲誕生から4年、市内の小中学校では給食の時間に流れたり、学校や保育施設の運動会やダンスの時間などにも採用したりするなど様々な広がりを見せ、2023年1月には合唱イベント「1000人で大合唱」を開催。当イベントは「合唱」という共同作業を通し、子どもたちに多様性と世界の広がりを経験いただくもの。SDGsの目標の一つである“パートナーシップで目標を達成しよう”に倣い、友好都市である世界の国々や日本各地の人とオンラインでつないだり、合唱だけでなく手話やボディーパーカッションなど、参加者それぞれの自由なスタイルで楽しめたりと、「繋がりと多様性」を重視した内容となった。

当日は会場、オンラインを含め、約1000人が合唱に参加。なお、テーマソングは、市広報プロモーション課窓口にて1枚200円で販売している。CDジャケットは、市PR大使で絵本作家のたけうちひろさんがデザインを手がけている。枚方市テーマソング制作プロジェクトの経過はこちらから。

(<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000023935.html>)

<お問い合わせ>

市長公室 広報プロモーション課 ☎ 072-841-1258 FAX 072-846-5341